

# ゆめスマサミット活動報告書

学校名	岡山県立岡山大安寺中等教育学校
活動目的	前年度の文化祭では、生徒が火を使わずに調理した物を露店で販売していた。行事後の生徒の振り返りでは、キッチンカーを導入してほしいという要望が多数あった。そこで、前年度に比べて、誰もが楽しめる学校行事にすることを目的に、文化祭でキッチンカーを導入するために生徒会執行部が中心となって多方面に働きかけ、キッチンカー導入が実現した。
活動内容 ・実施時期 ・場所 ・参加人数 ・場面、方法 等	<p>○準備期間：2025/6月～</p> <p>○実施時期：2025/8/25,8/26（月・火） 岡山大安寺中等教育学校白鷺祭</p> <p>○場所：岡山大安寺中等教育学校</p> <p>○参加人数：全校生徒約900人+保護者、地域の方、卒業生</p> <p>○場面・方法：キッチンカーで販売する商品を業者の方に提案し、販売していただいた。 キッチンカーは1台で多くのメニューを準備した。</p> <p><b>【生徒の利用について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・文化の部2日間、販売時間を10:00～13:30で販売した。</li><li>・並ぶ人数が多かったため、生徒会執行部が整理券を配布したり、誘導したりして解決させた。</li></ul> <p><b>【メニューについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・キッチンカーの会社の方と3回ほど話し合い、惣菜からスイーツまで幅広いメニューを展開させることにした。</li><li>・クレープ・ドーナツドリンクはオリジナルメニューを考案した。 クレープは、ブロックカラーの4色展開で、アイシングクッキーのデザインを生徒会執行部で考案し、パティシエの方に作っていただき、それを販売した。</li><li>・ドーナツドリンクは、ドリンクの種類をブロックカラーの4色用意して提供した。</li></ul> <p><b>【提供のための列について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生徒会執行部がメニューごとに列を指示し、混雑しないようにした。</li></ul> <p><b>【文化祭後に、全校生徒にアンケートを実施】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今回の文化祭の感想と改善点を回答してもらった。</li></ul>
	  

<p>成果と課題</p>	<p>○今年度キッチンカーを導入したことから、「温かい食べ物を食べることができ美味しかった!」「今後も導入してほしい!」との声があり、大変好評であった。</p> <p>△待ち時間が長すぎたり整列場所が暑すぎたりといった混雑への対策が不十分であった。そのため、今後の実施上での工夫は、整列するための場所にテントを設置したり、キッチンカーの台数を増やしたりして待ち時間の問題を改善したい。</p> <p>☆待ち時間の短縮のため、事前予約制についても検討したい。</p> <div data-bbox="343 376 1481 622">  </div>
<p>今後に向けて</p>	<p>今年度初めてキッチンカーを導入したことで、販売個数の概算を考えたり、待ち時間の規模を考えて配置を決定したりする新たな経験ができた。しかし、導入初年度ということもあり、改善点も多く見つかった。来年度からは今回の経験を次期生徒会に引き継ぎ、アンケートで挙げられた改善点を考慮して計画し、更に盛り上げていきたい。</p>

# ゆめスマサミット活動報告書

<p>学校名</p>	<p>( 岡山一宮高等 ) 学校</p>
<p>活動目的</p>	<p>生徒1人ひとりが学校行事におけるスマートフォンの利用について主体的に考え、状況に応じて適切に判断し行動できる力を育むことを目的とする。そのために、利用時間や場所、撮影時のマナーなどについて具体的なルールを定め、単なる禁止や制限ではなく、より良く、安全で誰もが楽しめる行事にするための指針として共有する。</p>
<p>活動内容</p> <p>・実施時期</p> <p>・場所</p> <p>・参加人数</p> <p>・場面、方法</p> <p>等</p>	<p>●実施時期と場所：9月5日(金),6日(土)岡山一宮高等学校,9日(火) ジップアリーナ岡山</p> <p>●参加人数：全校生徒960人+保護者、卒業生や地域の方々</p> <p>●場面、方法</p> <p>【银杏祭実行委員会】</p> <p>今年度は、生徒会役員を中心に、有志の生徒たちが集まり、银杏祭の企画・運営を進めていく実行委員会を組織した。生徒会だけでなく、外部からの意見も積極的に取り入れることで、多様な視点を反映した運営を目指した。银杏祭のスマートフォン使用ルールの見直しにとどまらず、これまでの银杏祭をスクラップアンドビルドの観点から再検討し、全体のプログラムを見直した。文化の部では、模擬店においてこれまでの形を発展させ、1クラスで複数種類の商品を販売できるよう工夫したほか、新たに野外ステージを設営して野外ライブを実施した。体育の部では、従来にはなかった新競技を企画・導入し、行事全体の活性化を図った。</p> <p>【スマホルールの作成】</p> <p>ゆめスマサミットで議論した内容を活かして、银杏祭におけるスマホルールを作成し、1人1人が考えて行動し、主体的に判断できるようにすることを重視した。生徒1人ひとりが「どう使うべきか」を自分で考えながら行動し、トラブルもなく安全にスマホを活用することができた。今回の取り組みを通して、ルールづくりに自分たちが関わることの大切さや、責任ある行動の必要性を再確認することができた。</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <p>银杏祭期間中、スマホを活用することで、生徒が主体的に情報収集や連絡、記録を行うことができた。写真や動画を撮影して思い出を残すことができ、友達との連絡もスムーズに行えたため、シフト管理や集合場所の確認が容易になった。また、二次元バーコードを使った投票により意見を集める手段が簡単に実現でき、準備や運営も滞りなく行えた。他クラスの友達とも連携が取りやすくなり、イベントを楽しむ選択肢が広がり、生徒が主体的に考えることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>二次元バーコードの設置場所や読み取りエラーにより投票を忘れる生徒が多く、投票方法の周知や手続きの簡略化が必要である。準備期間中は情報共有の遅れ、スマホ利用ルールのわかりにくさが課題として挙げられた。また、今回は、連絡手段がメールやLINEのみだったため、緊急時の電話機能の利用やルール遵守の対応も改善が求められている。</p>
<p>今後に向けて</p>	<p>スマホ使用ルールの明確化や情報共有の早期化を徹底する。これにより、生徒が主体的に行動でき、企画や運営に意見を反映しやすくなる。他行事でも同様の仕組みを導入し、写真や動画の記録、連絡、意見収集などに活用できる運用方法を検討したい。</p>



# ゆめスマサミット活動報告書

学校名	( 岡山城東高等 ) 学校
活動目的	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒が学校づくりに携わり、率直な意見を交わすことで、教員と生徒、地域の方々のそれぞれの立場から学校の仕組みを改善していくため。</li><li>・生徒主体の学校づくりを進めるため。</li></ul>
活動内容	<p>〈活動内容〉 学校運営協議会、二学期終業式での報告会</p> <p>・実施時期 ・場所 ・参加人数 ・場面、方法 等</p> <p>●学校運営協議会について</p> <p>〈実施時期〉 1 回目ー令和 7 年 7 月 7 日 2 回目ー令和 7 年 10 月 30 日</p> <p>〈場所〉 本校セミナー室</p> <p>〈参加人数〉 一年次生、二年次生の計 13 名</p> <p>「生徒会活動」「国際理解」「グローバル探究」の三つの観点から選出。 学校運営協議会委員 9 名および事務局教員 10 名</p> <p>〈詳細〉 1 回目 生徒、学校関係者、教員がそれぞれ 5～6 名ずつの 6 グループに分かれ、「探究的な学び」「異文化理解」「自主性、自律性」の観点から協議を行った。</p> <p>2 回目 1 回目の協議を受け、運営協議会委員の方々に「城東高校に持っているイメージ」などをインタビュー形式で伺った。その後、インタビューの内容について自由にグループを組んで協議をした。</p> <p>・OKAYAMA ゆめスマサミットにおいて、同じグループで協議した学校の中に、「校長先生と直接話し合いをして、新たな行事を取り入れた」という学校があった。この会も同様に、校長先生や地域の企業、大学関係者、県庁関係者の方々などと話し合いをすることで、意見が広く伝わりやすく、生徒の活動の範囲が広がるという利点がある。</p>

<p>成果と課題</p>	<p>協議会に参加した生徒からは、「大人と意見交換をするのは緊張したが新鮮だった」、「学校づくりは生徒だけではできないので、いろいろな立場の人と協議をしながら行なっていくべきだと思った」などの感想が挙げられた。回を重ねるごとに忌憚ない意見をぶつけ合えるようになり、協議が活発になっていった。</p> <p>特に、2 回目で行なった協議委員の方々へのインタビューを通して、城東高校生が学校外からどのような評価を受けているのかを知り、今後どのような学校を目指すべきかという理想像が明確になった。</p> <p>この取り組みが行われるのは今年が最初ということで、最初は皆慣れない中、まるで授業で行うグループワークのように、意見をまとめることに気を取られていた。しかし、協議を進めると、自分の考えを率直に伝え、学校運営の第一歩とするために、徐々に議論が熱を帯びていった。授業で行う話し合いとは違い、「意見を一つにまとめる」という明確な目標がなく、話し合いの枠組みを自分たちで考えて進めていく方法は新しく、それに対して大人からの干渉もないので、「自分たちの手で学校を動かす」という意識が芽生えてきた。</p> <p>2学期の終業式において、学校運営協議会の活動を最初に全校に PR した。最終的には、協議会に参加する特定の生徒だけではなく、もっと多くの生徒の意見が学校づくりに反映されるといいなと思う。そのために、もっと全校への周知に力を入れ、活動をもっと活発化させていきたい。</p>
<p>今後に向けて</p>	<p>学校運営協議会の取り組みは今回を一期目として、今後も恒久的に行なっていく予定だ。一期目の私たちは、いわば今後の学校運営協議会の土台として、話し合いの形態や議題、最終的な目標などについて互いに話し合い、手探りながらもその輪郭を顕在化させてきた。しかしこうして形成された協議会の枠組みも、いつか後輩たちによって創り変えられていくことが期待されている。</p> <p>岡山城東高校の自由な校風が活かされる生徒主体の学校づくりを真に実現するためにも、校内放送などを通して全校生徒への周知を進め、さらに代表生徒以外の意見も反映される取り組みに昇華していくことを願う。</p>

写真は 2 学期のリモート終業式後、遠隔で「学校運営協議会」の内容を全校に共有する様子。校長先生にもご参加いただいた。



# ゆめスマサミット活動報告書

学校名	( 岡山県立倉敷青陵高等 ) 学校
活動目的	多くの生徒に対して学校祭（青陵祭）の趣旨を理解してもらい、次年度の学校祭づくりに主体的に関わることができる場をつくる。
活動内容  ・実施時期 ・場所 ・参加人数 ・場面、方法  等	<p>「次年度の青陵祭に向けた会議」 令和7年9月～現在</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●場 所：倉敷青陵高等学校</li> <li>●参加者：教員、生徒会執行部、関連部活動、各種委員会代表者、一般生徒参加希望者</li> <li>●内 容：             <ul style="list-style-type: none"> <li>【青陵祭の振り返り】9月～10月                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒へアンケート調査実施</li> <li>・生徒会執行部での振り返りと次年度の課題の整理</li> </ul> </li> <li>【次年度の青陵祭に向けた会議】12月～1月                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・議題に向けたアンケート調査実施</li> <li>・学校祭実行委員や一般生徒での話し合い</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【議題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・青陵祭の目的を改めて確認する</li> <li style="width: 50%;">・生徒の思い、教員の思いを聴く</li> <li style="width: 50%;">・青陵祭のコンセプトの再構築</li> <li style="width: 50%;">・今年度の新たな取組みについての評価</li> <li style="width: 50%;">・具体的なテーマを設定するべきか</li> <li style="width: 50%;">・来年度の3年生模擬店について</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>【次年度の青陵祭の全体計画案を作成】12月～3月             <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部と顧問教員が参加</li> <li>・会議で出た意見をもとに生徒会執行部を中心に検討</li> <li>・顧問の教員を通して学校に提案。または来年度の運営時に執行部が変更を加えて運営</li> </ul> </li> </ul>
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員や保護者など立場の異なる人の青陵祭に向けた思いを知り、今までよりもより学校祭の理解が深まったと感じた。</li> <li>・生徒会執行部だけではなく、各種委員会や一般生徒が学校祭づくりに参加する場を作り、多くの生徒が青陵祭に対して主体的に考えることができた。</li> <li>・3年模擬店については、教員と生徒の意見が対立してうまく準備が進まない事がある。今年度のうちに模擬店についての概要を当該学年とともに作成することができたので、来年度の青陵祭ではスムーズな模擬店準備ができると思う。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の青陵祭に向けた具体的な計画の作成</li> <li>・青陵祭の準備運営に生徒会執行部以外の多くの生徒が関われる場をつくる</li> </ul>
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい青陵祭りに向けて、多くの生徒の声を聴く場や決定する場を作ることができた。これからは、学校づくり以外にも日ごろの学校生活で感じる疑問や悩み（校則など）を気軽に共有できるような工夫をしていきたい。このような取り組みを通じて、私たち生徒が主体的に学校行事の運営に積極的に関わるなど、学校をよい方向に変える活動が活発になっていけばよいと思う。</li> </ul>



# ゆめスマサミット活動報告書

学校名	岡山県立倉敷天城高等学校
活動目的	生徒自身が課題解決に向けて積極的に取り組み、充実した高校生活にすること。 主体的な活動を通して、問題解決に必要な思考力や行動力を身につけること。
活動内容	<p><b>&lt;第4回生徒会交流会&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●実施日：令和7年12月6日（土）</li> <li>●場 所：倉敷天城高等学校</li> <li>●参加数：倉敷市内の8校の高校 約30人</li> <li>●内 容：どうすれば自分たちの高校生活が、さらに楽しく充実したものになるのかを話し合った。各グループで挙げた意見を全体で共有し、考えを深めた。</li> <li>●議 題：①校則について ②学校行事を盛り上げる工夫と運営の工夫 ③学校行事におけるスマホ利用について</li> </ul> <p>⇒学校行事におけるスマホ利用をポジティブな方向にもっていくために...</p> <p><b>&lt;冬季球技大会でのアンケート実施&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●実施日：令和7年12月8日（月）※球技大会終了後</li> <li>●場 所：倉敷天城高等学校</li> <li>●参加数：本校1,2年の全生徒480人</li> <li>●内 容：天城高校の球技大会では記録目的としてのスマホの使用が認められている。このルールをどれくらいの生徒が守れているか、スマホ利用についてどのような意見があるか現状把握をするためにアンケートを行った。</li> </ul>
成果と課題	<p><b>&lt;アンケート結果&gt;</b> スマホ利用のルール：記録を目的としたカメラ機能のみ →スマホ利用のルールを守ることができたか（図1） 守れた：91.4% 守れなかった：8.6%</p> <p>「守れなかった」と回答した生徒に追加アンケートを実施 →どのような目的でスマホを利用したか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Classroomでの球技大会要項の確認 15人</li> <li>・ LINE・電話 9人</li> <li>・ 当日撮った写真の共有 5人</li> <li>・ 得点計算での電卓機能 1人</li> </ul> <p><b>&lt;解決策&gt;</b> ① Classroomでの要項確認に関しては、それぞれの会場に要項を印刷したものを掲示する。 ② 電卓に関しては、必要であれば貸し出す。</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b> 「記録を目的としたカメラ機能のみ」というスマホ利用のルールを設定したが、一部の生徒はそれ以外の目的で使用していた。解決策も考えたが、目標を達成し新たな試みを始めるためには、生徒一人ひとりがルールを守り、責任ある行動をとれる学校にしなければならない。</p>
今後に向けて	他校との交流やアンケートを通して、現状を知り、課題に対してどのように取り組んでいけるのか、考えを深めることができた。今回の活動は、生徒間だけの協議だったので、出た意見やアイデアを先生方にも共有し、目標の実現に向けて生徒一丸となってこれからも一步一步活動を進めていきたい。

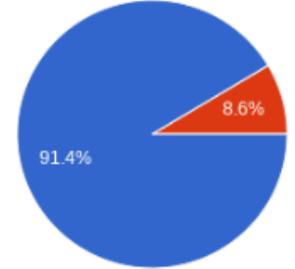
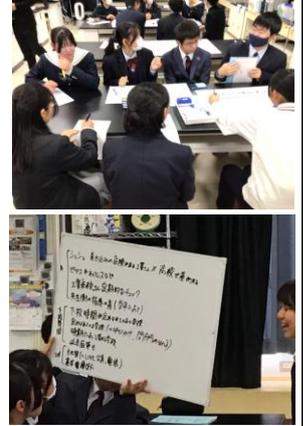


図1 ルールを守ることができたか

# ゆめスマサミット活動報告書

学校名	( 岡山県立津山商業高等 ) 学校
活動目的	生徒自身が主体的に学校行事に参画するための意識向上を図ると同時に、全校生徒の一体感と学校行事の活性化を図ることを目的とする。
活動内容  ・実施時期 ・場所 ・参加人数 ・場面、方法  等	<p>●実施時期：9月24日(水) 岡山県立津山商業高等学校 第104回 自彊祭(文化の部)</p> <p>●場 所：岡山県立津山商業高等学校 体育館、HR教室</p> <p>●参加人数：全校生徒471人</p> <p>●場面、方法 【全校生徒に対してステージ発表をオーディエンス投票(フォーム)で実施】 どのように実施するか。 ・体育館を出る前にホワイトボードにシールを貼る ・フォームでの回答 集計に時間を費やしたくないことや、次の日にすぐ発表することで2日後に行われる体育祭への各団の奮起にも役立つため、フォームで実施することにした。 【自彊祭終了後アンケートを実施】 自彊祭全体のアンケートを実施。フォームで回答。 オーディエンス投票についての内容を入れ、来年度に向けての意見収集を行う。</p> 
成果と課題	<p>【実施に至る背景】 3年生がクラスごとにステージでの発表を行うにあたって、昨年度から全員参加で観覧する取り組みが開始。それまでは審査員の先生の点数で順位が決まっていたが、ゆめスマサミットで他校の事例を聞き、発表する側も観覧者を楽しませるために工夫を凝らした内容を考えることにつながり、全校生徒が全員参加することでより楽しめるものになるのではないかと考え、オーディエンス投票を行うことにした。</p> <p>【成果】 フォーム配信にトラブルがあり投票のタイミングがばらついてしまったため、投票数が2割程度となった。自分が所属する団には投票しないという条件のもと行ったことは、公平性を保てた。また、投票結果には影響しないが「会場を一番盛り上げたクラス」を決めるべく、審査員+生徒会長に4団の色画用紙を配布し、4団の発表終了後画用紙を上げる方式で実施し、会場が一気に盛り上がった。</p> <p>【課題】 実施を決めた時期が遅かったため、オーディエンス投票があることを発表者側に伝えるタイミングが直前になってしまった。そのため観覧者を楽しませるための工夫があまりできていなかった。投票のタイミングがばらついてしまったため、投票数が少なくなってしまった。</p>
今後に向けて	<p>【終了後アンケート結果を踏まえて】 来年もやったほうがよい…94.3% 改善の余地あり…5.7%</p> <p>・みんなが確実に投票する時間を確保する。・自分の団も選べるようにしてほしい。といった意見があった。投票方法や実施についての周知を行ったうえで、企画を継続していく。</p>

# ゆめスマサミット活動報告書

学校名	( 清心女子高等 ) 学校
活動目的	時代にあった校則を設け、生徒の自己統治力を養う 多様性を認め合い、生徒が過ごしやすい学校を作る。
活動内容 等	<p>【防寒具の校則改正】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●実施時期：2025年10月頃から</li><li>●参加人数：全校生徒</li></ul> <p>●内容：コートのみとされていた防寒具に関する校則の改正案を作成し、その案を先生方と協議しながら全校生徒がより快適に過ごせる内容に校則を改正した。</p> <p>過去：形や素材等が決められていた →改定後：形や素材の指定が緩和され、機能的で軽いダウンコート等も着用可能となった。</p> <p>【アームカバーの着用許可】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●実施期間：2025年秋頃から（施行は2026年夏より）</li><li>●参加人数：全校生徒</li><li>●場面、方法</li></ul> <p>熱中症予防等の観点から夏場のアームカバーの使用に関する校則改正を生方と協議しながら検討し、熱中症や日焼け予防のために登下校時に着用できるよう改正した。</p>
成果と課題	<p>【防寒具に関して】</p> <p>【成果】</p> <p>2025年11月下旬に校則改正がされ、ダウンジャケット等を体調や気温にあわせて利用している生徒を見かけるようになった。 それぞれの多様性を認め合いながら、 防寒することができているように感じる。</p> <p>【課題】</p> <p>パーカーなど防寒着と私服との区別がしづらいもの等、 どこまでが着用可能なのかなど 様子を見ながら今後検討していく必要がある。</p> <p>【アームカバーに関して】</p> <p>校則として決定したが、2026年の夏から施行のため 現段階では回答しかねる。実施され次第、成果や課題を検証していきたい。</p> <p>現在の校則：ダウン・フリース可</p>  <p>以前：素材・形の決まったコートのみ</p> 
今後に向けて	<p>本校の共学化に伴う生徒層の変化や、時代の流れを鑑み、生徒がより過ごしやすいと感じる学校を作ることができるよう尽力していきたい。そのために、意見箱やフォーム等でアンケートを行うなど生徒の意見や要望をしっかりと汲み取ることができる環境を整えたい。また、これまでの伝統を大切にしながらも、新しい価値観や考え方を柔軟に取り入れ、一人ひとりが安心して自分らしく学校生活を送ることができるよう、責任を持って生徒会活動に取り組みたい。</p> <p>今回はゆめスマサミットで貴重な機会やヒントをいただきました。参加校の皆様や関係者の皆様に心から感謝申し上げます。</p>